

まえがき

近年、道路橋の補修工事現場における重大な火災事故の発生が報告されており、2015年には首都高速道路の現場における火災により作業員が死傷する事故も生じている。道路橋の工事現場における火災では、煙草などの工事に直接関係のない原因による失火も過去より多く発生しているが、ガス切断作業、溶接作業等の工事目的の作業そのものが原因となって周囲の可燃物に延焼することもある。

このような工事現場での火災に対しては、これまでも消防法などの関連法規の遵守や、施工計画段階における安全対策の検討、現場での安全パトロールの実施など様々な対策がとられてきている。

一方で、橋梁技術の進展によって、橋梁工事には過去には採用が一般的でなかった材料や技術なども導入される。このような新しい材料や技術に対しても火災防止の観点からは、従事技術者が十分な知識を有していることが重要であると考えられる。

本資料は、以上を踏まえ、防燃・防火・防災の観点で、鋼橋およびコンクリート橋の新設及び補修補強工事について、最近の現場状況を踏まえて工種ごとに火災発生リスクについて調査した結果をまとめたものである。まとめるにあたっては、橋梁工事現場の防火対策について、現場管理者（発注者）および施工業者（現場監督者や現場作業員）が、最低限把握しておくことで火災防止に有効と考えられる事項ができるだけ網羅されることに努めた。しかし、橋梁技術は日々進歩しており、工事現場の状況は千差万別であるため必ずしも本資料の内容で全てが網羅されるわけではないので本資料を参考にしつつ、実際の現場の条件を踏まえて適切に対策をとらなければならないことはいうまでもない。

なお、本資料は、「鋼橋の熱間加工技術に関する共同研究」（国土交通省国土技術政策総合研究所、一般社団法人日本橋梁建設協会）および「PC橋の多様化に対応した持続荷重の影響評価手法に関する共同研究」（国土交通省国土技術政策総合研究所、一般社団法人プレストレスト・コンクリート建設業協会）の活動の一環として、それぞれの共同研究において収集した防火対策に関する知見を、国土技政策総合研究所橋梁研究室がそれぞれの共同研究者である一般社団法人日本橋梁建設協会、一般社団法人プレストレスト・コンクリート建設業協会と共同で一つの技術資料としてとりまとめたものである。